

理事長所信

【はじめに】

みなさんは自分が住んでいる「ひがしね」は好きですか。若い頃の私は地元や養豚農家という家業が好きにはなれず「ひがしね」に対する愛着もさほどありませんでした。実家が農家であるために農業系の大学に進学しましたが、家業以外の仕事に就くことを考えていました。しかし大学2年の時に私の進路を大きく変える出来事が起こりました。必修科目として長野のぶどう農家さんへ実地研修に出向き、そこでお世話になったお父さんが「何もやれないから農家をやっているのではなく、何でもできるから農家をやっているんだ！」と目を輝かせ、前向きに農業に取り組んでいる姿勢に感銘を受け、農業の素晴らしさや地元で働くことの生きがいを感じることができました。それをきっかけに地元に戻って家業を継ぐということを真剣考えました。

その後、家業を継ぎ、今は自分の生まれ育ったこの「ふるさと」に根を張り仕事や生活ができることに喜びを感じることができるようになり、「ひがしね」が大好きになりました。「ふるさと」に対しての根の張り方は人それぞれ違いがあります。地元生まれ、そこに住み根を張る人、一旦は地元を離れ、また戻って根を張る人、地元から離れ遠くから故郷を思うという形で根を張る人、共通して言えるのは「ふるさと」を思う気持ちがあるということです。この「ふるさと」をより良いものにしていくため、「ひがしね」に住む全ての人々が手を取りあって自分自身、そして家族、子供達の将来のためにも一緒にこのまちの未来を考え、共に行動していくことが、「明るい豊かな社会」の実現への第一歩となります。「ふるさと」を誇りに思えるような「まちづくり運動」を展開し、「ふるさと」で輝ける人財を育成する「ひとづくり運動」を推進していくことが東根青年会議所としての使命と考えます。

【一人ひとりの心がまえ】

聖徳太子が制定した十七条憲法には、「和を以て貴しと為し、忤（さか）ふるること無きを宗（むね）とせよ」という言葉で始まります。その第1条には、「人はえてして派閥や党派などを作りやすい。そうすると偏った、かたくなな見方にこだわって、他と対立を深める結果になる。それを避けて、人々が互いに和らぎ睦まじく話し合いができれば、そこで得た合意は、おのずから道理にかなない、何でも成しとげられる。」と記されています。

この「和」とは、誰とでも仲良くし、波風を立てないのではなく、それぞれ力を発揮している状態のことを言います。個性と個性のぶつかり合いが多くなることが世の常だからこそ、新しい大きな力を生み出すためには、調和をはかり、相手や状況に応じて柔軟に対応していくことが求められます。計画や事業を実行するとき、互いを信じて取り組んでいると、初めは不可能かと思えたような課題でも、信じられないほどうまく解決できてしまうのです。

調和は、集団を一体化し、単なる要素の総和を越えた、創造力を生み出すのです。一人ひとりが、「和」の精神を意識し、相手を敬いながら、「原理原則」（常識）をふまえた「直言」による意見の交換をし、周囲の人々をも巻き込んで行動していくことにより、今までにない更なる一体感を生み出し、最大限の効果を生んだ運動を展開して参りましょう。

調和のとれた組織は「学び舎」として機能を備え、その「学び舎」から人生をより豊かなものにしてくれる生涯の真の友人、「直言してくれる人」、「原理原則（常識）をわきまえた人」、「師と仰げる（尊敬できるひと）」を見つけましょう。さらにはそんな調和のとれた人格者を目指し、至誠の心を持って「まちづくり・ひとづくり運動」を展開して参りましょう。至誠という言葉は、幕末に次代を担う多くの志士を教育した、吉田松陰の「至誠にして動かざる者は、未だこれあらざるなり」という教えから引用し、精一杯の真心をもって人に接すれば、心を動かされない人はいないという意味です。「まちづくり・ひとづくり運動」において、多くの人の心を動かすことができれば「明るい豊かな社会」が必ず実現されます。

【未来のまちのため】

我々のまちづくり運動は何を目的に行うのでしょうか。

その答えはそこに住む人々に「ふるさと」を誇りに持つてもらふことだと考えます。なぜ誇りに思うことが大切なのでしょう。その人にとって「ふるさと」は一つしかなく、地元で暮らしていても、遠くに離れていてもいつも美しい思い出を蘇らせてくれます。その思い出が美しければ美しいほど故郷への思いは強くなり、愛郷心が生まれます。そして愛郷心はまちに住む人々の心を豊かにしてくれます。

その愛郷心を育むためには豊かな自然、温泉や農産物といった地域資源などの様々な魅力を、まずは我々メンバーが現状を十分に把握し、改めてまちの良

さを見つけていくことが求められます。またその地域の魅力を人々に伝播していけば、まち全体の意識が変わり、行動が変わっていきます。我々青年会議所として、まちの人々が地域の魅力を再確認する機会を提供し、行政やまちの人々を巻き込み、ただ参加するだけではなく、参画や協力をしていただき、一緒にこのまちを考え、郷土愛を育むまちづくりを展開して参ります。「ふるさと」がより輝くように至誠をもって事業を立案し、至誠をもってまちの人々と対話と交流をしましょう。「ふるさと」が輝けば「日本」も輝きます。

【未来のまちを担う子供達のために】

我々のひとつづくり運動は何を目的に行うのでしょうか。

これから日本は世界で最も早く超高齢化社会に直面し、生産人口の減少による弊害やそれを補うための知能をもったロボットの開発が進んでいます。我々の想像を超えた世界がすぐそこまでやってきています。そんな将来の見通しがけっして良いと言えない状況の中でも諦めることなく、自分の可能性を信じ切れる地域を担う人財の育成がひとつづくり運動の目的です。

子供達は多くの可能性を秘めており、それがいつの時代も「地域の宝」と言われる所以です。その子供達の可能性を大きく広げることが、我々責任世代に課せられた使命です。子供と向き合うには大人の真剣さが重要になり、こちらの対応次第で子供達の反応も変わってきます。大人が真剣になればなるほど子供達の目の色も変わってきます。至誠をもって毅然と接することが我々には求められます。

責任世代が次に繋がる人材を育成していくという「循環」が生まれれば、そこには明るい未来が輝くのは自明のことです。事業を通じて育った青少年たちがこれまで支えてくれた周りの人たちに感謝し、自分の生きていく目的とその人生の意味を見出す事や、自分の生まれ育った「ふるさと」に誇りを持ち、自らが理想を掲げ行動できたなら、成長したその子供達が必ずやこの混沌とした地域の未来を切り開き、「明るい豊かな社会」を創造する人財になってくれると確信しています。「ひと」が輝けば「ふるさと」もより輝きます。

【会員の拡大と自己成長】

私が東根青年会議所に入会したきっかけは、魅力ある地元の先輩に勧誘していただいたことがきっかけです。当時は東根青年会議所がどんな団体でどのよ

うな事業を行っているのかはよく知りませんでした。ただ、先輩や先輩が所属している団体の方と一緒に行動すれば元気になれそうだし、自分自身を磨くことのできる場所だろうという確信はありました。失礼ながら東根青年会議所という団体に惹かれたのでなく、個人に惹かれ入会に至ったのです。

会員拡大を行う上で、候補者のリストアップや職場への訪問は大切ですが、何より重要なのは所属しているメンバー、一人ひとりに魅力があり、個人の輝きが東根青年会議所という団体を照らしていることだと考えます。

近年、全国的に会員数の減少や在籍年数の短期化が課題とされているように、私たち東根青年会議所においても会員拡大は重要な課題です。青年会議所は次代を担う地域のリーダーを育成する団体であり、40歳で卒業という制限のもとで活動をしています。そのような制限があるからこそ、常に全力で「明るい豊かな社会」へと導くために活動することが可能となります。会員拡大は、地域のトップリーダーを一人でも多く増やしていくための活動であり、また青年会議所がどのような活動を行っているのかを知ってもらうことにも繋がり、青年会議所運動そのものと言えます。もし仮に会員数が減ってしまった場合、発信力の低下、メンバーの多様性の減少による切磋琢磨の機会の喪失などといった問題が生じてきます。「数は力」として捉え、メンバー自身の成長に繋げていくために会員拡大を全会員の使命として、一人でも多くの同志を募ります。

青年会議所は青年の「学び舎」だと言われます。それはまちづくり、ひとづくり運動において人材育成の機会が多種多様に存在するからです。修練・奉仕・友情の三信条のもと実施する事業を通じての経験、そして、メンバー同士の出会いにより、お互いに切磋琢磨することで、気づきがあり、意識が変わり、率先して行動することができるようになります。何事にも誇りと責任感を持って行動することで人は成長し、地域になくてならない人財にとして輝き、その輝きで人を惹きつけてほしいと考えます。メンバー一人ひとりが会員拡大の重要なツールとして自覚を持って拡大運動を展開して参りましょう。

【結びに】

入会以来、青年会議所運動に真剣に取り組むことで、成功する楽しさや、うまくいかない悔しさを経験させていただき、本気になって取り組むと必ず報われるということを感じることができました。この「まち」や「ひと」に奉仕し、志を同じくする仲間との友情を深め、共に修練していくことができる喜びを分

かち合いながら邁進してまいります。また、本年は創立42周年を迎え、先輩諸兄が紡いできた創始の精神を大切にしながら、時代に見合った新しい取り組みを行い、何事にも果敢に挑戦して参ります。組織の器はその組織の長の器を超えないことをしっかりと自分に言い聞かせ、「修己治人（しゅうこちじん 自己を修養して徳を積み、まちづくりに励む）」この言葉を常に胸に刻み、1年間を全力で駆け抜けることをお誓い申し上げ、所信と致します。